

図書室だより

10月号



平成 29 年 10 月 2 日
春日部市立東中学校

学校の木々が秋の色に染まり始めました。厳しかった残暑もやわらぎ、爽やかな季節となりました。食欲の秋、スポーツの秋、芸術の秋、読書の秋、と何をするにも良い季節ですね。暑さから開放された、心地よい季節、ぜひともゆっくり読みたかった本にチャレンジしてみてください。虫の音（ね）に耳を傾けながら、秋の夜長にじっくり本を読んでみるのも素敵ですね。図書室には、お待ちかねの新作本が、ぞくぞく届きはじめています。この機会にたくさんのお本にふれてください。（ハロウィンの本もあります）



うれしいお知らせです。

新着本が図書室に入りました。

一部、ご紹介します。是非、手にとって読んでみてください。



- ◇ 『5分後に涙のラスト』『5分後に驚愕（きょうがく）のどんでん返し』『5分後に戦慄（せんりつ）のラスト』（5分でも大丈夫。短い時間でも、人生変わってしまうぐらい心を動かす、超短編小説。あなたのココロに5分間のきらめきを。一般の入賞作品です。）
- ◇ 『5分後に意外な結末』（古今東西の「意外な結末」がある話を集めた短編集。各お話が5分で読める5分シリーズ、本が苦手な子にぴったりの本。推理小説とは少し違います。「星新一」の短編が好きな人にもおすすめです。『3分後に意外な結末』もあります。）
- ◇ 『いるのいないの』（おばあさんの古い家で暮らすことになった“ぼく”。ある日梁の上にじっと見つめる男の顔があることに気づく。ラスト1ページは衝撃的。怖い。本当に怖い。怪談絵本シリーズの1冊。今年はシリーズであるので、他の怪談もどうぞ。）
- ◇ 『リアル鬼ごっこ』（西暦3000年。人口一億人。佐藤という姓を持ったひとは、二十人に一人という時代。百五十代目の王がゲームを考えた。七日間、毎日夜の一時間鬼ごっこをする。佐藤という人が逃げる。鬼に捕まったら、殺される。七日間逃げ切ったら、褒美が出される。というもの。さて、五百万人いた佐藤は何人生き残れるか？）
- ◇ 『中学生までに読んでおきたい日本文学』（日本の有名作家が著した名作短編をテーマごとにまとめたシリーズです。どの作品も中学生までに読んでおきたいおススメの短編ばかりです。教科書に載っているお話もあります。）
- ◇ 『セシルのもくろみ』（題名の“セシル”はフランスの小説家フランソワーズ・サガンの小説<悲しみよこんにちは>の主人公セシルが由来。宮地奈央は、総菜屋のパートをしていた。ファッション誌<ヴァニティ>の編集デスクに偶然、読者モデルとしてスカウトされる。当初は合わない世界だと思っていたが、世間から人気を集めると・・・女性の幸せがテーマの本。大沼公園や北春日部駅、川久保公園が話にでて身近に感じる本。）
- ◇ 『マララ 教育のために立ち上がり、世界を変えた少女』（タリバンに撃たれてもなお、女の子が学校に通う権利を訴えた「マララ」の手記です。ノーベル平和賞受賞の本です。）

- ◇ 『部活動があぶない』(大分県にある中津中学校のバスケット部の作者が思い出について語る部分。2年生のとき調子に乗っていた私が3年生になり、市内大会で苦戦をする。そのとき、友人ながちゃんのお陰で心の隙に気付きぐんぐん成長していく。「誰だって努力することで輝ける」ことをながちゃんによって、知り、バスケに熱心に取り組む話。)
- ◇ 『キャッチ 2005年4月25日におきた脱線事故が教えてくれたもの』(人はいつ死ぬかわかりません。明日かも知れないし、20年後かも知れない。死にさえしなければ、この世界には無限の可能性が広がっている。あきらめずに一步を踏み出したい。今だからこそあの事故に意味があったと思えるのかもしれない。後遺症によってできなくなったことは、山のように。できないことを嘆かず力強く生きていこうとする少女の自伝。)
- ◇ 『虫の知らせ』(この本は荻原先生お勧めの本。針聞書は、戦国時代に著された秘伝書。今にも動き出しそうな63種のハラノムシ。ユーモラスな表情の愛すべき虫たち。)
- ◇ 『ツナグ』(一生に一度だけ、死者との再会を叶えてくれるという「(死者)ツナグ」。ツナグの仲介のもと再会した生者と死者。それぞれの想いをかかえた一夜の邂逅(かいこう)は、何をもたらすのだろうか。心の隅々に染み入る感動物語、そして、ちょっとミステリーなお話です。)
- ◇ 『キミと、いつか』(近すぎて言えない「好き」好きなのに届かない気持ち、だれにも言えない想い。中1の女の子が主人公の胸きゅんストーリーです。片思いからはじまったり、失恋からはじまったり。両思いなのにすれちがうせつないふたりの恋物語です。)
- ◇ 『石のラジオ』(「昭和20年8月15日。正午過ぎ。大日本帝国南のはずれの島の、太平洋に面した洞窟の中で少年が死にました。」と始まる物語。飢えて死んでいく少年の耳に、鉱石ラジオのレシーバーから終戦を告げる玉音放送が響く。約20万人の死者を出した沖縄戦。地形を変えたと言われるほどの艦砲撃の恐ろしさ。「戦争で、最もひどい目に遭うのは、子供たちだ。」とメッセージを贈っています。「米倉齊加年(よねくらまさかね)」の「おとなになれなかった弟たちへ」と通じるものがある絵本。)父の言葉や、話していたことをまとめた本。大切なこと、大切な人をきちんと守る、強くて、やさしい大人になってもらいたくて書かれた本。素敵なお大人になれる本。)
- ◇ 『大遺言―祖父・永六輔の今を生きる36の言葉』(永六輔の孫である永拓実が生前の祖父)
- ◇ 『甲子園スーパースター列伝』(みんなの憧れ、甲子園!そんな甲子園にまつわる激アツなエピソードがもりだくさん!松井祐樹・ダルビッシュ有・田中将大・大谷翔平・清宮幸太郎・オコエ瑠偉・・・スーパースター21人の名場面にせまる!場外ホームラン級の注目作!甲子園伝説の完全保存版!これはアツすぎる!

いつでも、どこでも、すぐに続きを読みたくなる、魅力にあふれる本が入荷しました。心がきらきらしたり、胸がきゅんとする瞬間や、自分の手で本のページをたった1枚繰る向こう側に、未知の世界、ドキドキの未来が無限に広がっているパワーを感じてください。そして、1冊の本を2人で読み、その感動を述べ合うことができたら、ちょっとしたアクティブ・ラーニングになるのではないのでしょうか?背伸びをして、難しい本を読むことにもチャレンジしてみてください。友達同士で自慢しあってみるとよいと思います。図書室でお待ちしています。